

<https://www.zoukeimoriage.com/>



ZOUKEI MORIAGE SINCE 1957



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 05. 23 第41号

映画「地上の星たち（2007）」の感動を皆様と共に

今回は、映画を通して、造形教育（美術教育）の本質的な意義（意味）とは？を、改めて皆様と共に考えたいと思い、紹介させていただきます。

ある日、卒園間近の園児の祖母から「DVDになっていれば、ぜひ、お礼にプレゼントをしたいんですが…。実は、園長先生に、ぜひ、観てほしい映画があるんです。」と、紹介されながら、なかなか観ることが出来ずにいました。しかし、その映画のことは、あらすじを読んで以来、ずっと気になっていたので、先日、何とか時間を作り、ようやく観ることが出来ました。

最初の方は、インド映画の雰囲気、少し戸惑う面もあったのですが、映画の後半になるにつれ、私は涙が止まらなくなり、最後には、久しぶりに号泣してしまいました。こんな風に、映画を観て、号泣したのは久しぶりのことです。皆さんは、もうご覧になっているでしょうか。。。

まだ、ご覧になっていない方に、大まかに説明しますと、学校でも家庭でも問題児扱いされていた8歳の男の子のイシャーン。ついに、あることで、イシャーンに激怒した父は、厳しい教育をしている寄宿学校に転校させてしまいます。

その学校で、イシャーンは、生きる希望もなく、すべての人に心を閉ざして生きていましたが、そんなところに臨時で、新しい美術の先生が赴任してきました。

その先生は、自分に全く心を開こうとせず、絵も描こうとしないイシャーンに、深く心を痛め、様々な配慮と、温かい心遣いをみせていきます。やがて、その先生は、実は、イシャーンが、素晴らしい感性をもち、絵を描くことも大好きであることに気づき、イシャーンが、心から描きたくするような機会をつくっていくのです。

最後の場面で、イシャーンが素晴らしい絵を描いたことを、みんなの前で褒められ、休暇で、先生と、しばし別れる時になると、自ら、先生の所に駆け寄っていき、最高の笑顔で、先生に抱き上げられます。何と、その時のイシャーンの幸せそうなこと！！

この先生と出会って、イシャーンは、初めて生きる喜び、幸せを味わえたのだ！！と、心から思わせられました。この先生は、まさに、美術の授業を通して、すべての授業や家庭ですらも問題児扱いされていて、生きる希望も失っていたイシャーンの魂を生き返らせ、命を輝かせたわけですね。。。

美術教育（造形教育）には、このような素晴らしい力が秘められているし、また、そのような教育であってほしいものだと、しみじみ思わせられた映画でした。

そのようなわけで、造形教育に携わっている皆様には、ぜひ、観てほしいと思いますし、すでにご覧になった方、あるいは今後、ご覧になって頂いた方には、ぜひ、感想などもお聞きしたいと思います。

副会長 森本 壽子

5月月例会「運営会議」と「わくわく研修会」の報告

5月20日(土) 12:00～15:00 鎌倉女子大学幼稚部 参加者：24名

「運営会議」では、提案者の最終確認と午前と午後の分科会提案者を決定しました。「みんなでアート」の内容と責任者を決定しました。また、ワークショップの計画もかなり具体化してきました。

参加費や参加申し込み方法も確認し、2次案内の配布から参加者募集を始める方向です。

「わくわく研修会」の様子

今回は、大会での提案をお願いしている2つの園から活動紹介をしてもらいました。

「鎌倉女子大学幼稚部」と「かぐのみ幼稚園」の2園です。

鎌倉女子大学幼稚部の実践紹介は、昨年度の作品展への取り組みから子どもたちと先生と一緒に活動を進めていく様子を紹介していました。

鎌倉女子大学幼稚部は、これまでも子どもたちの自主的・主体的な活動への取り組みを大事にしてきて、この作品展に向けても、まずは子どもたちとの話し合いからテーマを決めていました。そして、テーマに向けての造形活動が始まると、子どもたちからは「もっとこうしたい」「こうやって表したらどうだろう」「これが使えそうだね」と、次から次へとやりたいことやアイデアや工夫が出てきます。先生たちは、その一つ一つに丁寧に関わり、決してやってあげるのではなく、子どもと一緒に考え、一緒に活動を進めていくという姿勢を常に持っていたようです。子どもたちにとっては、楽しくて仕方がない活動だったでしょうね。いつも「楽しいな」「もっとやりたい」という気持ちであふれていたことでしょう。大会当日の発表では、そんな子どもたちと先生たちのやり取りを具体的なエピソードをもとにたくさん紹介してくれると思います。

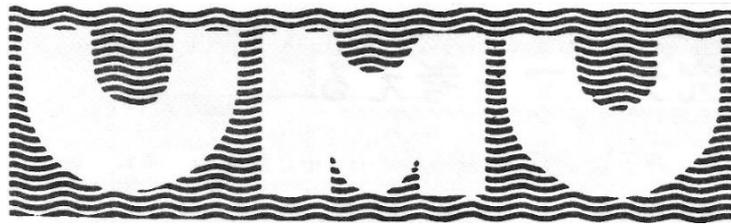
かぐのみ幼稚園の実践紹介は、子どもたちの日常の遊びから造形活動が生まれてくる様子を紹介してくれました。子どもたちの日常生活や遊びから造形活動が自然に生まれ、それをみんなの造形活動として共有しながら子どもたちの育ちへと結び付けていけるのは幼稚園や保育園ならではの活動です。

今回は、子どもたちの遊びから始まっていますから、子どもたち自身の活動であり、自分たちで考え、楽しくなる工夫をしたりしながら自分たちで進めていっていたと思います。子どもたちの主体的・自主的な活

動からどのように造形活動に結び付いていったのか、とても興味や関心を持てる取り組みでした。大会当日の紹介では、そこでの子どもたちと先生のやり取りや、子どもたちの気持ちの変化や育ちなどを具体的な様子をもとに報告してくれるものと思います。

どちらの園の実践紹介も、とても興味深いものであり、子どもたちの素晴らしい発見や気づき、そして心の変化や育ちが見られたと思います。そして、そこに寄り添った先生方の苦労や楽しみもたくさんあったのだらうと思います。大会での発表が今からとても楽しみになりました。





<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 05. 31 第42号

5月の「わくわく研修会」②

5月の「わくわく研修会」では、前回の会報でお伝えした通り、鎌倉女子大学幼稚部とかぐのみ幼稚園の2園の実践紹介がありましたが、その後、参加者みんなで造形遊びの体験をしました。

以前にも研修会で一度行ったスズランテープを使った造形遊びです。今回は、「くもの巣ランドにしちやおう」との投げかけで始めました。スズランテープをあちこちに引っ掛けながらホール全体にスズランテープを張り巡らせていきました。二人一組でスズランテープを引っ掛けていったので、自然とコミュニケーションも広がり、ワイワイガヤガヤと楽しい雰囲気での活動が進んでいきました。

この活動は、7月の研究大会の時に、参加者みんなであの大きな会場をスズランテープのくもの巣だらけにしようと思っていますので、楽しみにしてください。

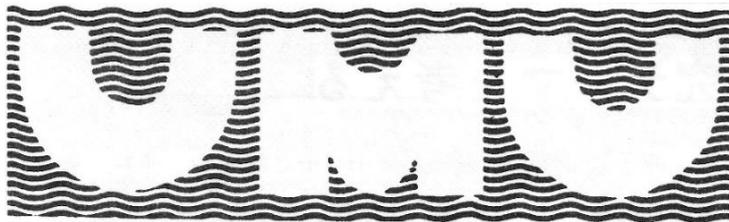


5月の「わくわく研修会」参加者の感想

- 幼稚園2園の素晴らしい提案を聞き、小学校でも「子どものおもい」を1番大事に造形活動を進めていきたいと思いました。時間の制限等もありますが、「造形遊び」を年間通して発展させたり、できたりする形もあると思ったので、実践していきたいとおもいます。
- 進行としては時間の気になるところですが、造形遊びをほぼ10分で仕上げたのはすごい！と思いました。それぞれの園の思いや建学の精神があり、それを基に造形教育が成り立っていることを痛感しました。それは具体的に何だろうと追及していくと、人間教育そのものに尽きると思います。その理念の基に造形で何ができるか、一方的な指導ではなくて何を引き出していくのか、そしてその活動で教師は何を学ぶのか、その子どもから教えられた教師の学びにこそ本質があると思います。
- ドロケイ遊びをどの子どもも楽しめるようになったところから、クラスの活動としてスタートする。とても素晴らしい視点だと思います。形に残らない遊びが、子どもと先生の思いで一緒に合わさっていく、その過程が保育のねらいとしてとても魅力を感じました。初めての参加・・・とても有意義な時間になりました。
- 幼稚園教諭になって1年目の夏、「造形教育をもりあげる会」の研修に参加させて頂き、今年で私も8年目となりました。今回はこれまでの研修で学んできたことを生かして実践した作品展の取り組みを発表させて頂き、皆様からいろいろなフィードバックを頂いたことで、自分にとっても良い経験となりました。くもの巣ランドは私自身も童心に帰って楽しむことが出来、良い機会となりました。ありがとうございました。

- 2つの幼稚園の提案を聞き、この素敵な活動を自分の小学校で生かせるよう工夫したいと思いました。スズランテープの活動は、ただの空間があつという間に、ファンタジーになって楽しい世界の広がりを楽しめました。有意義な時間となりました。ありがとうございました。
- 2園の実践発表の内容は、どちらも子どもたちの想像力や思いが十分に引き出されている活動で、楽しんでいることが良く伝わってきました。同じ環境ではなくても、日々の中で自分たちなりにできる形を取り入れてみたいところも沢山あったので、現場で参考にしていきたいです。蜘蛛の巣ランドは、最初は考えずにどんどん進んでいき、次第に工夫をして「こうしてみよう」という形に変わっていききました。夢中になりながら考えることの楽しさを感じられる造形活動を体験することが出来て大変勉強になりました。
- まず、ホール内にある子どもたちの絵に感動しました。特に竹の子の絵は素晴らしかったです。個性あふれるこんな表現ができる子どもたちに会ってみたいと思いました。本日の研修では、2つの幼稚園の発表、大変勉強になりました。子どもたちの主体性を引き出す、気づく等いろいろな学びがありました。私はいつも保育の中で子どもたちの様々な気づきに感動して終わってしまいがちです。それを発信し子どもたちの育ちを伝えられるよう努めていきたいと強く感じた研修会となりました。スズランテープ遊びは対話が生まれ、工夫に感動しました。
- 造形活動を通して、子どもの心がどのように動いていくかの過程を観ることができてとても面白かったです。また子どもの考えが、イメージを実現していくための環境や遊び等造形ができる大きな可能性も感じることができてとても勉強になりました。今回学んだことを実際の現場でも意識して子どもの心が豊かに育っていく援助をしていきたいと思います。
- 今回、他の園の発表を聞いて大変勉強になりました。子どもたちが作ることに對して、それぞれの園で積み重ねてきたものの味が出ていたと感じました。子どもが自由に、積極的に活動するために、準備、道筋を考えていき、子どもたち一人ひとりと向き合うことでより良い作品が出来上がること、そこまでの過程で子どもが成長していく姿を見ることが出来る造形のすばらしさを改めて感じることができました。最後にやった「蜘蛛の巣ランド」を作るのは、大人でも夢中になれるくらい楽しませてもらいました。今回の学びをこれからの保育に生かしていきたいと思います。
- 一人ではできない完成度で今回初めて見て驚きました。このまま外すのはもったいないから 明日までこのままにと。今、物を作っても、自宅に持ち帰ると 親が捨ててしまう家庭も少なくありません。写真に収めて実物は捨てる、という話を聞きます。子どもはどのように感じているのでしょうか。「明日までこのままに」笑顔になる瞬間でした。今日、参加された皆さんが笑顔でした。素敵です。
- とても充実した会になったと思います。ただ私は喋り過ぎてすみません。表層的な会にならないようにグループディスカッションの形も取り入れていただけると嬉しいです。熱い思いでみんなでもりあげましょう。
- 本日の講義から3、4歳の時期から、様々な素材を使用しているいろいろな技法で製作活動を行う、この大切さを学びました。それにより年長組になった際に子ども自身から、どのように作ろうか、アイデアが生まれてくると感じました。子どもが主体的に意欲的に活動していけるような素材準備や、環境設定、保育者自身の意欲が必要だと感じました。また、実際に見に行ったり五感を感じて体験することで子どもからの意欲が見られると改めて感じました。集団遊びに着目すると、全体で活動できるように、それぞれの個々の好きな遊びの融合が素敵であると感じました。最後の活動では、ペアで行うことでコミュニケーションが生まれ、発想もそれぞれ違いが生まれるため楽しく参加させて頂きました。

<参加者の感想は、次の会報でも紹介いたします>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 06. 12 第43号

<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育研究大会の参加申し込みが本格的にスタート！！

第67回造形教育研究大会の開催がいよいよ迫ってきました。

会員の皆様には、メール配信で先行して申し込み受け付けのお知らせを送りましたが、大会2次案内ができましたので、この配布とホームページでのお知らせにより、会員のみならず、広くみなさんに大会への参加申し込みを募りたいと思います。

3年ぶりに開催した昨年の大会では、まだコロナ禍の影響が強くある中、みなさんの協力で期待を大きく超える参加者に支えられて、充実した大会となりました。

今回は、社会状況も落ち着きを見せ始め、人々が集う機会が戻ってきている中での大会となります。

会員の皆様とは、この「会報UMU」やメールでの連絡等を通して繋がっておりますが、みなさんが顔を合わせて集う機会は、年に一度の研究大会です。もりあげる会が大切にしている「集うがつくる」を実現し、その喜びや大切さをみなさんでぜひ共有したいと思います。

今回も「みんなでアート」や「ワークショップ」など参加者みなさんで楽しめる活動もいろいろ企画しています。楽しみにしてください。

参加申し込みは原則メールにより受け付けます。みなさんからの申し込みメールお待ちしております。

造形教育をもりあげる会

第67回
造形教育研究大会
のご案内

大会テーマ
「自分をつくる
生きるをつくる
明日をつくる造形！」

ー プログラム ー
「みんなDEアート」
7つの実践提案
造形体験ワークショップ
交流タイム

令和5年 7月29日(土) 9:00-15:30
横浜ワールドポーターズ 6F
イベントホール A・B

主催：造形教育をもりあげる会
会長：武田 晴信

“集い”がつくる！

「未来に生きる子どもたち」
「誰もみだことのない明日をつくる子どもたち」
を大切に、
子どもたちや私たちのためにつながり、
集う会です。

つながりから生まれる

会場へのアクセス

参加申し込み方法

HPの「問い合わせ」またはメールにて
moriage123@gmail.com
参加者名・所属（勤務先等）・メールアドレス
を明記してください

参加費：3000円 学生：2000円
（参加費は事前の振り込みをお願いします）

振込先：郵貯口座 00240-7-43520
造形教育をもりあげる会
ネット振込：店番029 店名〇二九「ビロワ」当座
口座番号 0043520

造形教育をもりあげる会 HP <http://www.zoukeimoriage.com/>
Facebook ページ <https://www.facebook.com/zoukeimoriage>
問い合わせ moriage123@gmail.com（副会長：宮川友二郎）

5月「わくわく研修会」参加者の感想の続き

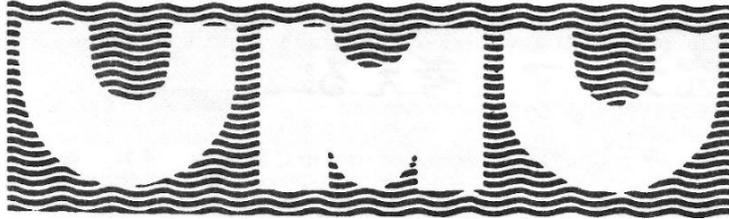
- この度は貴重な機会を頂き誠にありがとうございました。お手元の資料も準備不足の中、沢山の御指導頂き私自身とても学びになりました。また、遊びから始まる造形活動ということで、その中で子どもにどのような育ちがあるのか、子どもの姿保育者の願い、共に折り込みながら、日々保育を送っていくのを楽しんでいく為に今後も精進していきたいと思えます。自分の学びを話し、仲間の実践提案を聞く、子どもと同じく、自らもこうして育っていくのだな・と痛感致しました。
- スズランテープの活動では、ペアを組んで「あっちにつけるのは？」「ここを通すと面白いかも！」等、自然と会話が生まれて、新たな感想を取り入れることができ楽しかったです。体を大きく動かして、部屋を丸々使ってダイナミックに活動することを、普段ではあまりできないことでもあるので、実際に子どもたちも一緒に行えたら、より楽しめると思いました。また、いろいろな色で行うと、ふと見上げた時にすごくきれいで感動しました。大きな部屋に、秘密基地がたくさんできた気持ちになり、わくわくしました。終わった後も「蜘蛛の巣みたいだね。」「虹にも見える！」等イメージを膨らませながら楽しめると思いました。どうもありがとうございました。
- スズランテープ 1 つで広がる空間、わくわく感がとても楽しい活動だなと思えました。ペアで動くことで気持ちを共有できたり、自然と会話が生まれたりしてコミュニケーションが楽しめてとてもよかったです。活動を進めていくにつれてイメージがひろがって、いつもの見慣れた場所が違った特別な世界に変わっていく経験を是非子どもたちと楽しめたいなとおもいました。その際には今日のようにいろいろな色のスズランテープを用意して虹色に世界をつくっていったらより楽しめそうだなと感じました。水色や青を沢山用意して海の秘密基地、みどりや黄色で自然の秘密基地等、色々な世界をつくりながら繰り返し楽しめそうです！！ありがとうございました。
- 「子どもたちの作りたいもの、みんなで作ると素敵な活動に?!」の内容で、鎌倉女子大学幼稚部とかぐのみ幼稚園の活動紹介がありました。7月29日(土)第67回造形教育研究大会本番で提案して頂くことになっている両幼稚園の発表でしたが、発表のために活動したことではなく、普段の保育の在り方で、子どもたちの好奇心を掻き立てるすべての環境が、一人ひとりの意欲的な行動に導いていると確信しました。スズランテープを2人1組になるその場でのペアは、いつの間にか子どもの世界に入り込んでいました。普段あまり話さない子も活動的ではない子も笑顔になり、限りなく個々のイメージを育むこと間違いないとこれもまた確信しました。提案での意見交換のもりあがりと、ダイナミックなスズランテープの活動、共にありがとうございました。

6月の「わくわく研修会」6月17日(土)10:00～ 白梅いずみ保育園

横浜市立寺尾小学校の竹田まどか先生、横浜市立あずみ野中学校の本庄彩子先生からの実践紹介があります。そして、会場である「白梅いずみ保育園」の先生方から子どもたちの活動の紹介があります。

白梅いずみ保育園の先生方は、子どもたち一緒に楽しんだ「コマづくり」の活動を再現し、研修会に参加したみなさんと、コマづくりの楽しさやコマで遊びながら喜びを分かち合う子どもたちの気持ちを味わいたいと張り切って準備をしてくれています。

みなさんの参加お待ちしております。



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 06. 22 第44号

6月月例会「運営会議」と「わくわく研修会」の報告

6月17日(土)9:00~12:00 白梅いずみ保育園 参加者：24名

「運営会議」では、研究大会当日の運営マニュアルをもとに、当日の動きや役割、準備等を時系列で確認していきました。これまでの大会運営の経験や反省を生かして、参加していただいた方々により楽しんでもらえるよう工夫改善を検討しました。

「わくわく研修会」の様子

6月の研修会は、当日分科会で提案してもらった3本の実践を紹介してもらいました。

横浜市立あざみ野中学校の本庄彩子先生からは、「ホッとするピクトグラム ～あざみ野中学校が避難所になったら～」という題材の活動紹介がありました。地域の中にある自分たちの中学校が災害による避難所になったとの想定から、避難してきた人にわかりやすく、親切な表示をピクトグラムとして表すデザインの活動でした。この活動を通して、地域や他社への関心を高め、他者を意識しながら自分の思いや考えを分かりやすく伝え、被災した人たちの心を癒すことができるピクトグラムを表現していました。

横浜市立寺尾小学校の竹田まどか先生からは、「絵ナビ旅！ ～アートカードに親しもう～」という鑑賞の活動の実践紹介がありました。教師が言葉でナビした絵を描くことから始まり、言葉で聞いたままを描いても個々のイメージで違う絵ができることから、絵を見て感じる（鑑賞する）ことへの関心を高める楽しい導入がありました。そして、アートカードの楽しい使い方やアートカードゲームを通して育てたい力や、そこで大切にしたいことなどを実際に体験しながら紹介してくれました。

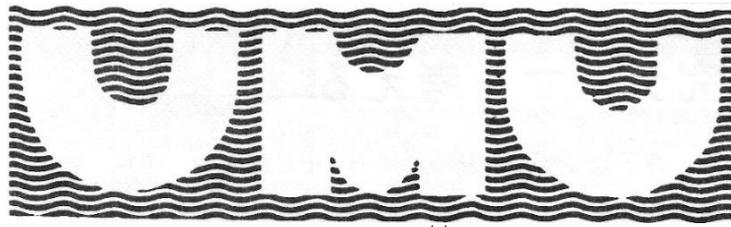
白梅いずみ保育園からは、「かんたんコマづくり」を通じた実践の提案がありました。3歳児の活動の様子に始まり、4歳児、5歳児の活動への広がりや高まり、そして、園全体で取り組んだコマ回し大会の紹介まで、コマづくりの活動を通しての子どもたちの学びや育ちをとっても分かりやすく、ドキュメント風に子どもたちの活動の姿を織り交ぜながらのお話でした。

中学校、小学校、保育園と3校種のバラエティに富んだ活動の様子に触れることができ、参加者にとっては、とてもラッキーな研修会でした。大会当日は、ますます充実した楽しい発表を聞くことができますと思います。



6月の「わくわく研修会」参加者の感想

- 小学校や中学校の取り組みは普段見ることができないため、新鮮で面白かったです。「学校＝勉強」知識を身に付けるという面ばかりイメージしがちでしたが、生徒の感性や思いやり、一人一人の気持ちを大切にしていける造形活動のよさを感じました。AI化、機械化が進んでいる時代だからこそ、感じたこと、イメージしたことを表現し合い、語り合っ受け入れ合っっていくことの重要さを感じました。また、今回発表に携わっっていく中で、造形遊びについて考えることも増え、より子どもたちの保育が豊かになっていくことができよかったです。
- 夏の造形での発表に向け、とても貴重なご意見を聞くことができ、勉強になりました。ピクトグラムやアートカードなど、学校のIT化の進化は、現場ですごいと思いました。さまざまな情報をこのような研修の場で得ることができたので、保育でも活用できることを考えてみたいと思いました。発表も、小・中学校ともに分かりやすく興味の惹かれる内容で楽しかったです。
- 中学校のピクトグラムの提案では、テーマに合わせた色彩計画を中学生が実践していることが伝わってきました。今までのピクトグラムと異なり、色数が多く、平面構成も面白かったです。保育園のコマづくりの提案は、発達段階に合った取り組みが見られ、児童の姿でも見られるような活動が就学前の子どもたちにも見られることが分かり、とても勉強になりました。自分自身が発表する際、ワークショップのような形でできればよいかと簡単に考えていたために、準備の段階で大変ご迷惑をおかけしましたが、対応していただきありがとうございました。
- アートカードは活用してみたいと思いました。タブレットだと分かりにくいけど、カードになっているのがよかったです。コマづくりは、もう少し素材を工夫した方がよかったかなと思いました。本物のコマを使っってみたり見せたりすることで、造形のおもしろさがもっと広がると思います。
- 中学校、小学校の先生方からお話を聞く機会がなかなかなかったので、大変興味深く聴かせていただきました。ホッとするピクトグラムでは、自分から周りへと自分事として考える機会や、“人から見て分かりやすいとは”と、“自分のオリジナル”を創意工夫できる素材提供が素晴らしいと思いました。アートカードというものを初めて知りました。アイパッドやアートカードを使っで子どもの興味関心を引き出して指導されている様子を知ることができ勉強になりました。
- 今回、小学校・中学校・保育園で行っている造形教育について知ることができ、とても勉強になりました。ピクトグラムの発表では、お話を聞いて“私だったらどんなピクトグラムを描くかな”と考えました。先生方の“ホッとする＝優しい色”なのかというご意見を聞いて、確かに私もそのような認識があったなと思いました。自分のことだけでなく、高齢者の方がはっきり見えるようにといった思いやりも込めて考えることが大切だと感じました。絵ナビ旅の発表では、内容も大変興味深くおもしろかったのですが、私自身、小学校教諭の免許を持っているということもあり、発表の仕方に大変ひきつけられました。“もっと知りたい。学びたい。”と子どもたちに思わせる導入の重要さを強く感じました。
- 中学生の難しい時期に「人のこと。人のためを考えてみる」というのは、とても大切なことだと感じ、生徒たちの考えている過程も見ることができて感動しました。「アートカード」初めて知りました。子どもたちが楽しんでいる姿が、先生のお話から目に浮かんできて、こちらまで楽しくなってきました。
- 今回の研修に参加させていただき、小学校、中学校の取り組みについても知ることができ大変面白かったです。とくに、小学校の絵ナビ旅や、アートカードは知らなかったなので、実際に触れてみてとても楽しいと思いました。アートカードから様々なことを想像したり、イメージを広げたりすることの面白さや、個々の感じ方や見方の違いに気づくことができました。カードを使っでお話づくりをやっみたいと思いました。中学校のピクトグラムづくりも興味深く、教師の願いや題材選びに共感を覚えました。



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 08. 09 第45号

「第 67 回造形教育研究大会」を終えて

造形教育をもりあげる会 会長 武田晴信

記録的な猛暑が続く中、造形教育をもりあげる会主催の「第 67 回造形教育研究大会」も無事に終えることができました。これも会員の皆様、関係各位の皆様のご協力とご支援によるものと考えております。心より感謝いたします。ありがとうございました。

コロナで開催出来なかった 3 年間で過ぎて新体制になって 2 回目の研究大会となりました。私達役員は昨年の大会以降、毎月の月例会を重視してきました。月例会の前半は運営会議を開いて第 67 回大会の打ち合わせの時間としました。後半には実技研修を必ず入れるようにしました。始めの頃の月例会に参加してくれる方は 10 名ほどでしたが、徐々にリピーターが増えて来ました。そして嬉しいことにリピーターの方々の中から園や学校に戻って、実技でしたことを実践される方がいたことです。それも一人ではなく何人も数を増やしていきました。ついにはこの研究大会で実践報告やワークショップの講師まで引き受けてくださった方もいます。月例会も 2023 年に入ってから提案される方のプレの提案があり、参加者と一緒に提案について話し合いが出来ました。

コロナ前までの研究大会と今回の大きな違いは、提案者の数です。以前は午前中に 8 分科会・午後 8 分科会の計 16 分科会でした。今回は午前中に 4 分科会・午後 3 分科会の計 7 分科会となりました。しかし、提案内容は充実していましたし、参加された皆さんも意欲的に臨んでいました。ただもう少し、小学校と中学校の提案者が増えてくれると良いなと言う感想は持ちました。ただこれもこの 4 年間のコロナで県内各地の小学校・中学校の研究会がリモートになったりして、情報が私達に集まらなかったと言う事があります。

参加人数もコロナ前までは約 200 名の参加でしたが、今回は約 130 名の参加人数でしたが、この数が決して少ないとは思っておりません。自分の意志で休日に参加費を払って参加すると言うだけで、皆様の意欲を感じます。

大会後に今回の大会を反省して来年の第 68 回大会に向けてスタートします。引き続き月例会は継続して行く予定ですので是非これからも参加して下さい。その際に造形の好きな方や子どもの教育に興味のある方を誘ってきて下さい。私達はこれまでも学校教育だけに限定せず色々なことに興味・関心がある方を受け入れてきました。それはこれからも継続していくつもりです。今後もメールで私達の考えを配信していきますが、皆様のご意見やご要望も反映して行きたいと思っていますので、たくさんのご意見をお寄せ下さい。お待ちしております。



研究大会の様子をお伝えします

第67回造形教育研究大会の様子を「会報」で順次お伝えしていきたいと思っております。今回参加されなかったみなさまにも、少しでも大会の様子を感じてもらえれば幸いです。

ワークショップ

今大会のワークショップは、4ブースに分かれて行いました。

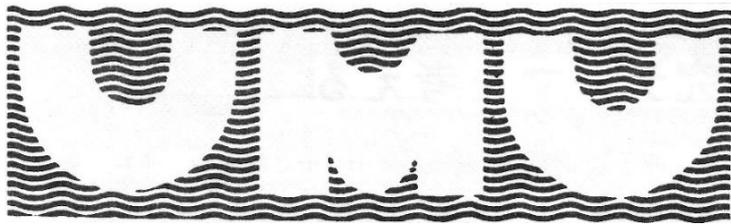
参会者の皆様は、自分の興味に応じてそれぞれのテーブルに座り、たまたま隣り合った方々と語り合いながら、造形活動を楽しんでいました。平山雄大先生による「切り貼り民話を体験」では、様々な種類の木の写真を切り取って妖怪をつくるという分科会で提案された取り組みを実際にやってみました。ワールドポーターズにたくさんの民話が生み出されました。

大高伸弘先生の「つながってアート！」では、厚めの画用紙を自由な形に切り取り、切り取られた画用紙同士を穴あけパンチとハトメを使って組み合わせていきました。そして、さらに、自分の作品と友達の作品も繋げてしまうことで、心もつながるアートになっていました。

後藤楣比古先生による「おもりをつけて右・左」では、紙コップにギミックを仕掛け、ゆらゆら動くおもちゃを作りました。さすがは、造形教育に興味のある皆様です。短時間でなんとも癒される作品がたくさん生み出されていました。

白梅いずみ保育園の皆様による「つくって楽しい回してうれしいコマづくり」では、主に紙皿やトイカプセルを使ってコマを作りました。身近な材料を工夫して貼り付け、出来上がったコマたちを回す皆様は、正に童心に返った笑顔に包まれていました。





<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 08. 12 第46号

第67回造形教育研究大会の様子

みんなでアート

「つないで、つないで、みんなでアート」(みんなでアートⅠ)

朝、会が始まる前のちょっとした時間を使って。今年も皆さんのアートが繋がりました。

スチレンボードを切ることを楽しんでいる人。何を切るか決めてから切り始める人。「できるかな～」と不安そうな人…面識のない方同士でも作品をつくりながら、「面白いですね」「それいいですね」などと気さくに声を掛け合う場面も見られ和やかな雰囲気でした。「あらこれ面白い」とか「(熱いから)小さい子(保育園や幼稚園児)には危ないね」なんて話していたり、「このような活動ならみんなでちょっとした時にできていいね」など参考にされる方もいたりしました。親子で参加していた小学生の男の子は、夢中になってあれこれ迷いながら完成させて満足そうでした。壁に貼る時も、「何処に貼ろうかな～」と他の方の作品との感じから貼る場所を考える様子もありました。そして、みんなの作品が繋がって1つの素敵なアートが完成しました。



「くもの巣ランドをつくっちゃえ！」(みんなでアートⅡ)

スズランテープを使った造形遊び。



何もなかった広々とした会場が、5分もしないうちに大変身。色とりどりのスズランテープでくもの巣が張り巡らされました。黙々と活動する中、「わーキレイ!」「面白い!」「綺麗だね。」「楽しいね!」

いろいろな声が聞こえてきます。造形遊びは片付けまでもが活動になります。みーんなであつという間に元の会場に。... 色別に集めたり、グルグル巻きにしてビニール袋に詰めたりすると、次の活動にもつながります。大人の心の解放にもなりました。これが子どもたちだったら、どんなに喜ぶのでしょうか!!

分科会の様子

第7分科会 逗子市かぐのみ幼稚園

「泥棒学校・警察基地」というとても魅力的なタイトルの実践発表には、沢山の参加者が集まりました。

集団遊び「ドロケイ」が子どもの言葉から発展し、タイヤや井形ブロックを使った構成遊びや基地の設計図作り、相談活動や『修行』という名の運動遊び等、五領域を踏まえた遊びや活動が次々に展開していきました。自然の中で、子どもたちの生き生きとした表情の写真に、参加者の皆さんは魅了され思わず微笑む様子が時折見られていました。

参加者の皆さん自身も「泥棒学校・警察基地」の子どもたちの様子を感じながら、同じようにワクワクする時間となったようでした。

発表後の意見交流で、多種多様な豊かな素材準備について質問がありました。

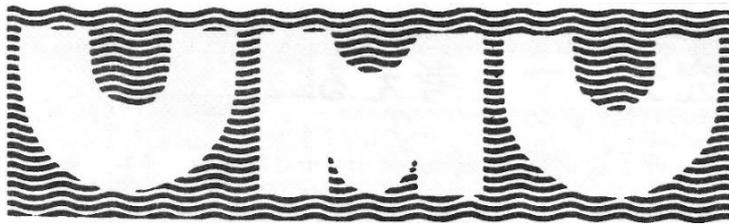
保育者が活動の為に材料を準備しておくだけではなく、日頃から様々な素材収集に目を向け、遊びの中で子どもたちの言葉にアンテナを張り、タイミングが来た時にいつでも使えるような工夫がされていることが分かりました。

また、自然豊かな環境が無くても、それぞれ置かれた環境の中で、遊んでいる子どもの言葉に耳を傾け、様子を見守り、子どもの主体性や創造力を豊かにすることは出来る事を再確認することができ、こころ豊かな時間となりました。



大会参加者の感想

- 貴重なお時間をいただきありがとうございました。初めにあったスチレンボードを使ったアートがとても楽しかったです。子どもと保育者だけでは使用するのは難しいと思いますが、教室でやっても楽しいかと思いました。実践もあり、よい時間になりました。
- 造形の研修に小学校の先生方も参加されていた。今まで、幼稚園の先生、保育園の先生が参加されている研修には行くことがあったが、とても新鮮であり学ぶことが多かった。様々な考え方があるが、子供の生活を大切にできる造形活動をこれからも大切にしながら改めて感じました。とても素敵な時間をありがとうございました。
- 興味のある内容、ワークショップ、楽しく過ごせました。幼稚園・保育園・小学校。中学校の発表を聞き、「うちだったら何ができるかな。」と考えてとりくんでいきたいと思いました。ありがとうございました。



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 08. 15 第47号

第67回造形教育研究大会の様子&報告

分科会の様子

第4分科会 白梅いずみ保育園

もりあげる会の研修会で行なったコマ作りを園に持ち帰り、幼児クラス全体で作って、園全体でコマ回し大会をした、と言う実践についての提案でした。

活動報告と言うと5歳児クラスが中心のことが多いのですが、3歳児クラスの活動をメインに4・5歳児の活動がどう影響し合ったか、また乳児のかかわりや園全体のコマ回し大会まで、活動開始から3か月余りの継続した活動の様子を写真を交えて丁寧に説明されていました。

発表の途中、「3歳児の活動について」や、「4・5歳児の活動の関わりの部分」で会場から多数の質問がありました。園長が園の概要を話して活動の背景の理解を得たり、「やりたくないという子がいなかった訳は？」ということについては、「日頃から（乳児の時から）意欲的に活動に取り組んでおり、その積み重ねだと思う」「そういう文化があるんだ」「先生が本気で楽しんでるからね！」など活発な意見や考察が出て、大変有意義な意見交換もできました。保育園ならではの造形活動のようすが分かる内容だったと思います。

最後に、副会長の増田先生が『この実践がもりあげる会の研修から生まれた』ということを改めて説明して下さり、残りの時間はみんなでコマづくりを楽しんで、午後のワークショップに繋がりました。

「私は本気でコマ回しました！いつも本気です！」と言う提案者の声に、会場から、「私も！」と共感する声が上がりました。

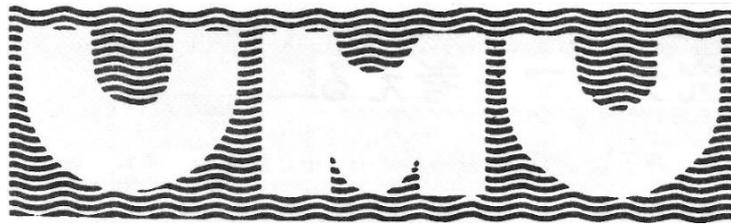


大会参加者の感想

○午前中には、鎌倉女子大学幼稚部の「作品展に向けての共同制作」を聴きました。普段の保育から、いかに子どもたちの言葉に耳を傾けていけるのか、その重要性を改めて感じ、日々の保育の反省をする機会となりました。その後のスズランテープを使って、くもの巣のようなものをつくったりするのは、とても楽しく、子どもたちともやってみようと思います。午後には、分科会⑤の「つくり出す喜び感じる楽しさ～」を選びました。一本の紙で、はさみの使い方、接着剤の使い方、場の工夫等いろいろ学び、楽しむことが出来るので、保育に取り入れようと思います。

- 今年も開催頂きありがとうございます。去年から参加させて頂いており、幼保だけでなく、小学校や学童など様々な職場で働いている方のお話を聞けたり、交流を持つことができたりと、毎回たくさんの刺激ももらえています。年長担任ということもあり、小学校との繋がりを意識しながら分科会を聞かせていただきました。保育園児ではまだ難しい活動も、小学校の児童の姿を見ることができ、目指す姿として活動を練ることができるなど感じました。また来年も参加させて頂きたいです。ありがとうございました。
- 分科会において、それぞれに工夫子ども主体に活動する内容に感じ、興味大変勉強になりました。造形ならではの想像力膨らむ内容、柔軟な内容学びになりました。ワークショップの内容も興味深いものばかりで、時間が足りない感じでした。ありがとうございました。今後今日の学びをどう生かしていくか考えていきたいと思います。
- 予定つかず、参加できないことも多くありましたが、今年度は参加することができました。研究発表もこれからの保育の刺激となりました。ワークショップは時間を忘れるぐらい夢中になれました。コラージュをやらせていただきましたが、世界のひとつの自分だけの作品ができて、大満足でした。家に飾ろうと思います。すてきな時間をありがとうございました。
- 分科会の発表では、子どもの可能性をとて感じる内容で参考にしたいと思った。理想的な活動であったが、実現するにはむずかしく、環境が整っていない中でも出来る活動で取り入れていけたら良いと思う。出来ることが少ない子どももはさみ等の使い方を提示することで、確認しやすく活動できると思う。本日はありがとうございました。
- 切貼民話とピクトグラムに参加しました。聞いている我々もワクワクするような楽しい会でした。ありがとうございます。
- 実際にワークショップを受けてみて楽しいと感じたものや子ども達と一緒に作って遊んでみたいと思ったブースもあったので楽しくできました。実践報告では、聞いてみたいのがたくさんあり、聞けなかったのはざんねんだったが、聞いてみてやってみようと思ったのがあったので聞いて良かったです。実際に自分がやって楽しいと思うことを大事だと感じたので、まずは自分が楽しんでいる所を造形から伝えられるようにしていきたいと思いました。
- 久しぶりに参加させて頂きましたが、故郷に帰ってきたような安心感を、感じる事ができました。また、初めて切貼民話を発表、ワークショップを行わせていただきましたが、皆様の温かなお言葉や作っていただいた作品を通して、たくさんたくさん元気をいただくことができました!今後ともどうぞよろしく願いいたします。
- 色々な造形の取り組みについて知ることができて、面白く良い機会になりました。参加型で、童心に返りながら楽しく参加し、他の方たちと良い時間を共有することができた。実際に保育に生かせるヒントもあることができたので、現場に戻ったら、試してみたいと思いました。

まだまだたくさん感想やご意見を頂いていますので、次からも紹介をしていきます



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 08. 15 第48号

第67回造形教育研究大会の様子&報告

分科会の様子

第2分科会 鎌倉女子大学幼稚部

毎年11月に行われている作品展「みどり祭」に向かうまでの、年長組の共同制作の様子の発表でした。鎌倉女子大学幼稚部では、年少組の時から、普段の遊びに必要な物は、自分で様々な廃材などを工夫して作り、それらを自由に使って遊ぶことを楽しんでます。ですから、作ることや描くことが、子どもたちは大好きで、園生活の中で、造形活動は、いつも自然な形で行われています。この為、作品展だからと言って、誰かに見せる為に、急に何かを作らせるとか、描かせるなどのことはなく、その年度の年長さんの興味、関心のあることから、自然に作品展のテーマが決まっていき、そのテーマに向かって友達と協力し合って創り上げていくという作品展となっています。今回は、「世界のいろいろな国」というテーマに向かい、世界の乗り物や食べ物などを主として創り上げていく様子を、写真を中心に発表しました。



参加者の方々からは、幼児期の子どもたちが、グループの仲間たちと、相談しながら様々な材料を工夫して使っていく様子に、大変驚かれたという感想や、幼児期に培われた創造力を、小学校でも、もっと伸ばしてあげる必要があるのではないか。また、くれぐれも、人に見せるための作品展ではなく、子どもの普段の作品を大切にするという保育者側の意識や考え方を、これからも大切にしていける必要があるのではというご意見などがありました。

発表当日の進行ですが、発表後の話し合いが、より充実した内容になっていく為には、発表内容を、より把握している人に進行をお願いしてはどうかということで、今回は、発表園の園長が担当しました。

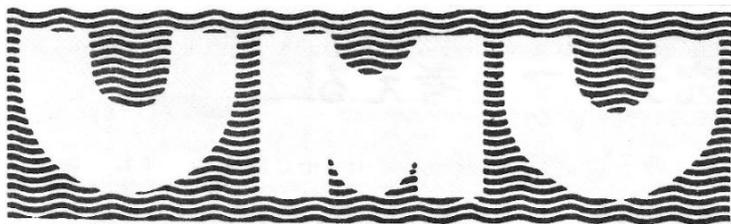
進行役を担ってみて、参加者から質問を頂いた時に、発表者の返答だけでは分かりにくいかなと感じた際には、進行役が、より詳しく説明をするなどして、補足をするということが出来たので、その点は、参加者にとっては、良い面だったかなと感じました。また、発表の内容で、もう少し参加者に詳しく理解して頂きたいことや、深く追求して頂きたいことなどがあった場合には、参加者の方に、進行の方から、遠慮なく質問を投げかけるなどのことも出来たかなと感じています。

しかし、発表内容や発表の形式が、参加者を自然に巻き込む形のものでないと、ともすれば、発表者と進行役の考えている方向に進んでいきがちになる面もあるので、参加者から、自由に意見を出して頂いたり、一緒に考えて頂いたりする雰囲気を作っていく為には、どのような発表の仕方や内容で行っていくかが、重要なポイントになっていくのかなと感じました。今回のやり方の良さと、課題を活かして、来年度もより良い発表になっていくことを期待しています。



大会参加者の感想

- 多くの楽しい実践を学ぶことができ、楽しかったです。ワークショップがとてもよかったです。やってみてわかることが多くありました。運営の皆様ありがとうございました。
- 色々な造形の取り組みについて知ることができて、面白く良い機会になりました。参加型で、童心に返りながら楽しく参加し、他の方たちと良い時間を共有することができた。実際に保育に生かせるヒントもあることができたので、現場に戻ったら、試してみたいと思いました。
- 他園の取り組みを学ぶことが出来てとても楽しかったです。子どもたちの想像力を表現することを楽しむ経験をさせてあげたという思いはあるものの、日々の保育に追われ、なかなかのびのびとじっくり取り組ませてあげられる時間が取れていなかったため、園で連携を取り、様々な経験をさせてあげられるよう考えていきたいと思えます。自分たちで考える力を身につける活動のヒントを見つけることが出来ました。ありがとうございました。
- 第4分科会に参加して。幼児期の終わりまでに育てたい10の姿が5才児だけのもののように感じてしまうか、各学年の保育目標からも、子どもの成長を10の姿でとらえかながえられていることが良かったです。日頃の行事や活動も10の姿と結びつけ、振り返りや評価に意識していこうと思えます。
- 楽しい企画をありがとうございます。武田会長と同期で40年以上の友人です。現在、鎌倉学園にて、中高の社会、地理を教えています。週2~3回、横須賀の不登校サポート校で支援も行っています。いろいろな勉強させて頂き、大変良い機会となりました。皆様の活動を応援しております。
- ワークショップに参加して、とてもおもしろく、いろいろな方の作品も作り方から見ることができ、刺激を受けた。分科会B-1に参加。2つのワークショップの様子をていねいに紹介して下さい、子ども達の活動の様子がよくわかり、また先生がいろいろな子ども達の活動にていねいにに関わり、たのしい作品ができていく様子をおもしろくきかせていただき、学ばせていただいた。
- 初めての参加でしたが、ワークショップがたのしくて、すぐに保育に生かせる学びができて良かったです。参加者の方々の作品も面白くて参考になりました。分科会も興味深いものが多く、迷いましたがお話を聞いて大変勉強になりました。他の分科会に参加した方からも少し話を聞けたので良かったです。
- まずは、研究大会開催おめでとうございます。保育園勤務ですが、職業柄、子どもと直に造形を楽しむことはありませんが、ここで頂いた知恵と発想力を仕事に活かしていきます。今回も発表からの実態や課題、またワークショップでの学びは本当に楽しいです。
- 午前の実績紹介(アートカード)では、グループの活動で他の先生方と感じ方など全く違って楽しかったです。自分が発表していても、違った感情が芽生えたり思ったこともちがっていたりしたので、面白かった。部屋全体を作った、くもの巣では大人になって大がかりな事をあまり行いう機会がなかったので、簡単なものだったけれど楽しかったです。ワークショップでは、集中して物を作ることが出来て楽しかったです。



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 08. 26 第49号

第67回造形教育研究大会の様子&報告

前号から少し間が開いてしまいましたが、引き続き造形教育研究大会の記事を掲載します。

分科会の様子

第1分科会 横浜市立寺尾小学校 竹田まどか先生

分科会①のご提案は、参会者体験型でした。提案者と参会者が一体となり、配慮なくもりあがり過ぎ、隣の分科会にご迷惑をかけてしまう程でした。申し訳ありませんでした。

竹田先生は分科会開始時刻の数分前に「前座」と称し、参会者の前に立ち、ご自身が今年度は図工主任ではあるが図工の授業は受け持っていない等の紹介を始められました。にこやかで温かな語り口調に、参会者のみなさんは竹田先生の人柄に引き込まれていくようでした。

参会者が体験した1つめは「ナビゲーションで描く」。竹田先生が描く形を口頭で順を追って伝え、参会者はナビゲーションされた通りに描いていくというもの。参会者は完成した図柄を互いに見せ合い、同じ指示で描いたにも関わらず、他者の捉え方や表し方の違いがあることを楽しんでいました。

2つめの体験は「アートカード」。まず、竹田先生が小学校3年生にアートカードとタブレット端末を活用して実践した鑑賞授業について発表されました。そのあと、参会者がグループになり、実際にアートカードを並べ、1枚1枚の作品をもとに、形や色、イメージなどを語り合ったり、グループで物語を作って紹介し合う活動をしたりしました。

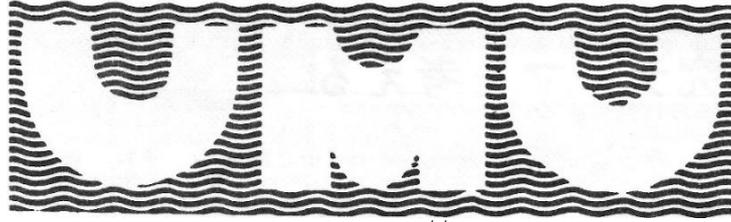
竹田先生のご提案をきっかけに、参会者ご自身が他者と楽しく関わり合いながら造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力について気付き、深まる時間となりました。参会者みなさんの笑顔がとても印象的でした。

ファシリテーターとしては、発表者の竹田先生の意図と流れに寄り添いながら、参会者にとって印象に残る充実した学びの場になるように努めました。



大会参加者の感想

- 本日は貴重な体験をありがとうございました。他の幼稚園や普段はより交流の少ない小中学校での実践を見たりきいたりする時間は新たな刺激になるだけでなく自分たちの保育を改めてふり返るとてもよい機会となりました。こんな実践できたらいいな!と思うものも沢山の自分自身も作ったり学んだりとても楽しい時間をすごせました。造形教育は幼〜ずっとつながっていくものだと改めて気づかされて、お互いの実践を知り、つながりをもって子どもたちがより豊かな経験をしていけるようにれんけいして、とりくんでいきたいなと思いました。
- 昨年に続いて2回目の参加をさせていただきました。今回は、月例会の研修に参加をしたり、提案をしたりの参加だったので、以前よりも身近な感じで、造形について学ぶことができました。ふだん、造形について学ぶ機会が少なく、このようなたくさんの学びをしながら楽しく過ごせる会があり、良かったです。ありがとうございます。
- 実践紹介(アートカード)では、グループの活動で他の先生方と感じ方など全く違って楽しくかったです。自分が発表していても、違った感情が芽生えたり思ったことが違ったりしていたので、面白かった。部屋全体を使ったくもの巣では大人になって大がかりな事をあまり行う機会がなかったので、簡単なものだったけれど楽しくかったです。ワークショップでは、集中して物を作ることが出来て楽しくかったです。
- 大会の参加は3回目で、定例会にも3回参加させていただきました。いつも「ご準備」のご苦労に頭が下がります。参加する側は、気楽に楽しく、ありがたいです。図工って、もっと楽しく活動するものだと、つくづく思います。評価してもっと簡単に分かりやすくあるべきではないかと思えます。授業・活動を楽しくやり、良かったね、で終われるといいです。
- 0歳児の担当なので、普段、造形とはあまり縁がないと思っていましたが、今日参加してみて、とても楽しく、また、0歳児の保育の中にも生かせることをたくさん学ぶことができました。頭の固くなってしまった自分につながりもりましたが、いろいろな園や学校の子どもの発想の豊かさに「子どもってすごい!」「おもしろい」「自分も負けたくない」と感じました。これからもっともっと、自分自身も職場でも造形を楽しんでいきたいです!!
- 幼稚園、小学校、中学校、それぞれの環境の中で行われた造形活動の発表を聴講して、新たな技法や生かし方を知ることができました。造形をするにあたって、子ども主体になるように!は、どの過程をとっても共通していて、子ども主体の活動になるためには、どのような手立て、投げかけ、素材の出し方、環境構成など、さまざまな工夫がなされていることを改めて学び、同時に痛感しました。ワークショップもたくさん設けられて、実践的に様々な素材、道具、つくり方を知ることができました。他の先生方の、新しいひらめきを身近で感じながら、刺激を受け取ることができました。
- 分科会でも、実物に触れたり、実践したりして体験することができたので、わかりやすくとてもよかったです。何よりもとても楽しかった。分科会は2つの会場に分かれていたので、受付してそのままの流れでA会場にいた方が多かったように思う。反対に午後は、B会場の方が多くいたように感じた。幼・保・小・中と様々な年齢別での造形への向き合い方を知ることができた。保育園では難しいこともあれば、取り入れられそうな部分もあり、とても勉強になった。
- ワークショップで実際にコマを作ったり、発泡スチロールを切ってつなげてアートを作ったりできてとても楽しかったです。作る上で、コツが意外と必要で、少しずれると上手に回らなかつたりしたので、周りの方と相談しながら作りました。自然に会話も生まれ、造形は人と人が繋がる学びでもあると感じました。また、分科会では、他の園や小学校の学びを共有できて、とても良かったです。今回学んだことや感じたことを大切にして、今後の保育にもつなげたいと思いました。



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 09. 16 第50号

造形教育をもりあげる会の会報「UMU」もおかげさまで第50号を迎えました。

一昨年(2021)の11月に「復活第1号」としてメール配信を始めてから、2年弱でここまで配信できたのは、もりあげる会が活発に動き始めた証だと思います。メール会員の人数も200人を超え、それだけの方がこの会報に目を通してくださっているのだと思うと大変うれしくなります。

これからも、会報「UMU」を通して、造形教育をますますもりあげ、子どもたちの豊かな成長にとって、造形教育がとても大切だということを発信し続けていきたいと思っています。

「銭湯の中の芸術!あるある!」

私は旅行が好きである。美味しいものを食べるのが好きである。温泉や銭湯が好きである。

子供の時には、伊豆半島の田舎に育ち、遠くに旅行をするほど裕福な家庭ではなかったし、お風呂などは面倒でむしろ嫌いな方であった。大人になり少しずつ自分の時間が出来上がり、ほんの少し贅沢に旅行に行けるようになった今、温泉・銭湯にはまっている。今はやりのサウナも付け加えておこう?! ホテルや旅館に泊まったり、色々な温浴施設に行ったり、銭湯に行くうちに温泉や水の質を肌で感じられるようになり、「あそこの湯はあだこうだ。あそこの水はあだこうだ。」と、言えるようになった。(本当にわかるの?と声が聞こえてきそうですが...)私の住んでいる品川区にも隣の大田区にも、温泉の出る銭湯がたくさんある。温泉ではなく地下水をくみ上げた銭湯もある。この3年間コロナ禍の中でも銭湯は休業していなかった。生活に必要なものと判断されたのは、いくら自分の家に浴室が97%以上ある日本の事情とはいえ、公衆衛生上も必要なことだったと思う。そこで、「黙浴」という言葉が生まれた。旅行に行く代わりに銭湯や温浴施設に行き、旅行気分を味わえた。子供の頃の田舎の銭湯と全く違う。脱衣所を眺める番台は存在しない。田舎の友達の家が銭湯をやっていて、営業前に番台に座らせてもらったりしたこともあった。掃除の行き届いた浴槽と浴室。場所によってはサウナも無料で入れる。それぞれが個性的なつくりで、それが500円で味わえるのだ。銭湯と言えば富士山!時代に応じて変わってきているのだろうが富士山はやはり捨てがたい。そういう銭湯も多少は残ってはいるが、今は色鮮やかな配色の個性的な壁画が目立つ。中には何もないシンプルでモタ、ンな銭湯もある。先日行った銭湯は1cmもない、小さなタイルを何千枚いや何万枚も使って、見事にグラデーションのある山々や木々、湖を描いていた。見事である。ゆっくりと黒湯につかり、フーと一息つく。何も考えずに...しかし、私はそうはいかない。正直な所、のんびりしに来たのに、あれこれ考えてしまったり、次はあそこに行って夕飯の買い物をして、と考えるしまったり...という残念な具合だ。この頃、水風呂に入れるようになり、都会でも涼しい風を感じながら外気浴用の椅子に座ることはできるようになった。皆さんもぜひ家の近くの温泉や銭湯に足を運んでみてください。何も考えずに、フーと...そこには芸術が溢れています。

PS.私のお勧めの銭湯は、蒲田の「はすぬま温泉」

日帰り温泉は、箱根の「天山湯治郷」

どんなところかは、皆さん行ってみてください!

事務局長 紺野 清美

第43回 造形「さがみ風っ子展」のご案内

相模原の藤田校長先生が、さがみ風っ子展の案内を送って下さいました。

とても素敵な作品展なので、もりあげる会員の皆様にもぜひ見に行っていただきたいので、ご紹介させていただきます。

1. 日時・会場

令和5年10月20日(金)～22日(日) 10:00～16:00

【緑区会場】 城山公民館

【中央区会場】 GLP アルファリンク相模原

【南区会場】 女子美術大学

市民健康文化センター

※ いずれの会場でも、21日・22日はワークショップが開催されるようです

2. 内容

- ・相模原市内小中学校等および招待校の児童生徒の図工・美術の作品展示
- ・図工・美術教材メーカーによる体験型ワークショップ

風っ子展は、屋内の展示だけでなく、屋外の展示スペースもあり、広大なスペースに子どもたちの作品が素晴らしく映えている様子もぜひ見ていただきたいところです。

それぞれの会場が離れていますので、造形「さがみ風っ子展」のホームページから詳細な情報を得てから出かけた方がいいと思います。

<https://sites.google.com/sagamihara-kng.ed.jp/kazekko/>

令和5年度 第43回 「さがみ風っ子」文化祭

青空に広げよう創造と友情の輪を!

展示部門 造形「さがみ風っ子展」

【緑区会場】城山公民館 【中央区会場】GLPアルファリンク相模原
【南区会場】女子美術大学・市民健康文化センター

10/20(金)・21(土)・22(日) 10:00～16:00

ステージ部門

「中学校演劇発表会」 南市民ホール 7/27(木)・28(金)

「小・中学校音楽発表会」 市民会館 11/3(金)

令和5年9月吉日

関係各位

造形「さがみ風っ子展」実行委員会
委員長 藤田 博己

第43回 造形「さがみ風っ子展」開催のご案内

日頃より、造形「さがみ風っ子展」開催につきまして、深いご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

さて、皆様方のお力添えによりまして、第43回造形「さがみ風っ子展」を次の日程で開催する運びとなりました。

つきましては、公私ともにご多用のことは存じますが、ご来場いただきご支援を賜りたく、ご案内申し上げます。

1. 日時・会場
(1)日時 令和5年10月20日(金)～22日(日) 10:00～16:00
(2)会場 【緑区会場】城山公民館(21日・22日はワークショップ開催)
【中央区会場】GLPアルファリンク相模原(21日・22日はワークショップ開催)
【南区会場】女子美術大学
市民健康文化センター(21日・22日はワークショップ開催)

2. 内容
(1)市内小中学校等および招待校の児童生徒の図工・美術の作品展示
(2)図工・美術教材メーカーによる体験型ワークショップ

3. その他
会場ごとの展示学校、ワークショップ内容、会場へのアクセスなどの詳細情報は、造形「さがみ風っ子展」ホームページをご覧ください。
(<https://sites.google.com/sagamihara-kng.ed.jp/kazekko/>)

【お問い合わせ】
さがみ風っ子文化祭運営委員会 事務局
学校教育課 企画推進・支援班
電話(直通) 042-769-8284